



東矢本駅前地区では、開発地域の農地の表面土壌を削り、湾岸部に運ぶ作業が行われている

宮城県東松島市でUR都市機構は「野蒜（のびる）北部丘陵地区」と「東矢本駅北地区」の復興市街地整備事業を支援している。両地区において、市街地整備事業を行うと同時に、東北復興のための農業再生に欠かせない表土活用作業にも協力支援している。震災で壊滅的な被害を受けた農業生産者が、生活の糧（かて）を得るための仕事の場を確保するための重要な作業だ。

「野蒜北部丘陵地区」（約90ha）は、事業前、主に森林だったが一部、北部に農地を含んでいる。「東矢本駅北地区」（約22ha）は、事業前には多くの部分が農地だった。こうした農地を住宅地に整備する際、使わなくなる表面の農業土壌を、津波で潮をかぶり農地として使えなくなった沿岸部農地の土壌と入れ替える作業を、県、市と協力して行っている。本格的にまちづくりに入る準備作業として、大型のブルドーザーで表面の土壌を掘り起こし、集積した後に大型ダンプに積んで運ぶ作業を実施している。